



平成31年3月26日

日本水大賞委員会

名誉総裁：秋篠宮文仁親王殿下

委員長：毛利 衛

(日本科学未来館館長)

同時発表

国土交通記者会、国土交通専門誌記者会

環境問題研究会、厚生労働記者会、農政クラブ、農林記者会、文部科学記者会、経済産業記者会

第21回 日本水大賞 各賞が決定しました

日本水大賞は、水に係る様々な活動に各地で熱心に取り組んでおられる団体や個人などを顕彰し、これからも活動が発展することを期待して進めて参りました。

全国各地の水に係る活動が更に進み、環境の保全や地域の活性化に大きく貢献できるよう祈念し、第21回日本水大賞の各賞を決定いたしました。

なお、第22回日本水大賞につきましては、例年通り7月7日から募集開始となる予定です。

大 賞 (賞状・副賞200万円) 岡山県 学校

活動主体の名称：山陽女子中学校・高等学校 地歴部

活 動 の 名 称：瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦

1. 日本水大賞について

日本水大賞は、日本水大賞委員会（名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下、委員長 日本科学未来館館長 毛利 衛）、国土交通省が主催し、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる21世紀の日本を目指して、水循環系の健全化に向けた諸活動を広く顕彰し、活動を支援するため平成10年6月22日に創設されました。今回で第21回を迎えます。我が国で水環境における全ての団体、個人の研究活動を対象にした唯一の賞であり、大賞以下、水行政に関わる6省に大臣賞を設けています。詳しくは「資料-1」をご参照下さい。

2. 日本水大賞の各賞について

日本水大賞は、水循環系の健全化を図る上で社会的貢献度が高く、総合的な見地からみて特に優れたものに対して大賞が贈られます。その他に国土交通大臣賞、環境大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、市民活動賞、国際貢献賞、未来開拓賞、審査部会特別賞を授与する事としています。

3. 日本水大賞の応募状況

第21回日本水大賞は、平成30年7月7日（川の日）に募集を開始し、同年10月31日に締切りました。第21回日本水大賞には全国から137件の応募がありました。

4. 各賞の決定について

日本水大賞の各賞の決定は、審査部会において厳正な審査を行い、最終的に平成31年3月5日（火）に開催された日本水大賞委員会において「資料-2」のとおり、決定いたしました。受賞理由につきましては「資料-3」をご参照下さい。

なお、日本水大賞委員会及び審査部会の構成メンバーは、「資料-4」のとおりです。

5. 表彰式及び受賞活動発表会の開催について

日 時：2019年6月25日(火)

会 場：東京都江東区 日本科学未来館

お問合せ先

日本水大賞委員会 事務局

公益社団法人日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5

TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426

担当：主任研究員 上田 伸也



日本水大賞

JAPAN WATER PRIZE

水

の惑星—地球を形容するのにこれほど適した言葉はないでしょう。水は自然界を循環し、地球上あらゆる生物の生命を育み、生存を支え、汚染を浄化してきました。特に日本においては古来より美しい水を誇り、私たちはその恩恵に浴してきました。私たちはこの美しい水を次世代の子どもたちに受け継ぐことができるでしょうか・・・。

平成 10 年 6 月、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本と地球を目指し、水循環系の健全化に寄与することを目的として、日本水大賞顕彰制度委員会（委員長 東京大学名誉教授、国連大学上席顧問 高橋 裕氏）が設立され、事務局が社団法人日本河川協会（現 公益社団法人日本河川協会）内に置かれました。第 7 回から日本水大賞委員会に名称を変更し、第 12 回より、日本科学未来館館長で宇宙飛行士であった毛利衛氏が委員長に就任しました。現在、委員 13 名・特別委員 6 名で構成されております。

また、第 17 回より国土交通省が主催者として協働しております。

日本水大賞委員会は、水循環系の健全化に寄与する個人、諸団体の地道な研究活動を応募、顕彰し、広く全国に紹介、啓発するための「日本水大賞」を主催し、第 1 回日本水大賞の表彰式・受賞活動発表会が平成 11 年 3 月に秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り盛大に開催されました。また秋篠宮殿下におかれましては、平成 17 年 5 月より日本水大賞委員会名誉総裁にご就任されております。

第 1 回の日本水大賞は、大賞の他大臣賞として建設大臣賞、国務大臣環境庁長官賞（当時）が贈られました。その後、第 3 回（平成 13 年 5 月）から厚生労働大臣賞、第 6 回（平成 16 年 6 月）から農林水産大臣賞及び文部科学大臣賞、そして第 8 回からは経済産業大臣賞が加わり、水環境行政に関わる全ての 6 省から贈られるまでになりました。

今年で第 21 回となる日本水大賞は、これまで応募総数、延べ 3,722 件に達し、大賞以下表彰された個人、団体は、延べ 281 件を数えます。後援をいただくのは、水循環政策本部、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省の他、関係 34 団体となります。協賛企業は 5 社 1 団体であり、日本における水環境問題を研究活動する全ての個人、団体を対象とした唯一の賞として、活動される多くの方々の励み、目標となり、広く国民に水循環系の健全化の重要性を啓発する機会として発展を遂げてきました。



対象範囲

(1) 対象となる活動の内容（活動分野）

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

①水防災：

- ・水災害に対する安全性の向上に資する技術を開発し、普及する（ハイテク機器、文化財、ライフライン等を水災害から守る）
- ・雨をためる、しみこませる、ゆっくり流す
- ・河川の伝統的技術や災害体験の伝承等の啓発・普及

②水資源：

- ・水を大切にする
- ・山や川などの水源地を大切にする
- ・異常渇水のときに被害を少なくする

③水環境：

- ・川や湖沼、海などの水をきれいにする
- ・水辺の生き物やそのすみかを大切にする
- ・水辺や水のある地域づくりを行う
- ・水に関わる体験活動、環境学習を進める

④水文化：

- ・水や川や湖沼、海などに対する敬意と親愛を高める
- ・水や川や湖沼、海などの文化を創る、又は広める（芸術、文学を含む）
- ・地域における水文化を発掘する、又は普及させる

⑤復興：

- ・上記①から④に該当する諸活動のうち、地域の復興の視点から実施されるもの

※その他、上記①～⑤に関係する国際的な連携・技術協力・学会活動



(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校・企業・団体・個人・行政などが実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して、以下の賞を授与し、広く公表します。

①大賞 【グランプリ】（賞状・副賞200万円）

水循環系の健全化を図る上で、活動内容が幅広くかつ社会的貢献度が高く、総合的見地から特に優れたものに対して授与します。

②大臣賞 【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】【農林水産大臣賞】

【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】（賞状・副賞50万円）

各省の行政目的に関係の深いものの中から、特に優れたものに対して授与します。

③市民活動賞 【読売新聞社賞】（賞状・副賞30万円）

市民活動の中から、特に優れたものに対して授与します。

④国際貢献賞（賞状・副賞30万円）

活動の範囲や効果が国際的であり、人・文化・技術の日本との交流も含め、大きな功績をあげていると考えられるものに対して授与します。

⑤未来開拓賞（賞状・副賞10万円）

国内外を問わず水分野における新たな展開を対象とし、特に優れたものに対して授与します。

⑥審査部会特別賞（賞状・副賞10万円）

活動がユニークなものなど、審査部会において特に表彰に値すると判断されたものに対して授与します。

第21回日本水大賞 各賞（応募総数137件）

各賞	活動主体	都道府県	活動の名称	活動主体の名称
大賞	学校	岡山県	瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦	山陽女子中学校・高等学校 地歴部
国土交通大臣賞	団体	愛知県	～市民と行政が一緒に歩む堀川浄化～ 堀川1000人調査隊2010	堀川1000人調査隊2010実行委員会
環境大臣賞	団体	福島県	8年連続「水質最良」な荒川の川づくりに貢献！ ～ふるさとの川・荒川づくり協議会20年の取組み～	ふるさとの川・荒川づくり協議会
厚生労働大臣賞	団体	東京都	日本の水に関わる若手を結ぶプラットフォームの構築	Japan National Young Water Professionals
農林水産大臣賞	団体	新潟県	ESD学習－捨てられていた魚は環境の見張番	特定非営利活動法人 五泉トゲソの会
文部科学大臣賞	団体	千葉県	印旛沼源流域での里山保全活動と環境教育	特定非営利活動法人 NPO富里のホテル
経済産業大臣賞	団体	滋賀県	琵琶湖の生態系維持活動と琵琶湖の水文化（伝統漁法・食文化）を 次世代のこどもへ繋ぐ	びわ湖エコアイデア倶楽部
市民活動賞	団体	北海道	厚沢部川水系の水辺環境と河川資源を活用した 地域に根ざした任意団体の活動	厚沢部町河川資源保護振興会
国際貢献賞	個人	長野県	生物浄化法による安全な飲料水の普及	中本 信忠
未来開拓賞	団体	愛知県	流域を支えるクラウドファンディング カワサポ	一般社団法人ClearWaterProject
審査部会特別賞	団体	愛知県	緑の回廊づくり	みどりのまちづくりグループ

第 21 回日本水大賞 各賞 受賞理由

大 賞 (賞状・副賞 200 万円) 岡山県 学校

活動主体の名称：山陽女子中学校・高等学校 地歴部

活動の名称：瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦

○受賞理由

海底ゴミ問題は、公的な回収者が不在であることや、普段は目に見えない潜在的なもので問題解決が遅れがちであるとともに、プラスチックの含有等による水質への影響をはじめ海域環境への影響が看過できない問題です。

このような状況の中で、この団体では 2008 年から海底ゴミの「見える化」プロジェクトとして、海底ゴミの調査・回収活動のみならず、住民に対する認知度調査、体験学習会、出前講座、巡回展示館等の多様な情報発信活動を行ってきました。また、解決に向けた意識の高揚に向け、多くの団体等との協働や学会等での報告等の活動にも取り組んできました。

10 年以上にわたる継続的な活動であること、意識改善を促すという明確な目的を持っていること、多くの団体との協働により社会的な成果を得ていることなど、その活動の継続性と多様な取組みにより、問題解決の出発点となる地域全体の意識改革をもたらす効果をもたらしてきました。このことは、日常生活と水との関わりを再認識する社会を構築していく特に優れた取組みとして高く評価できることから、大賞にふさわしいと判断しました。

国土交通大臣賞 (賞状・副賞 50 万円) 愛知県 団体

活動主体の名称：堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会

活動の名称：～市民と行政が一緒に歩む堀川浄化～ 堀川 1000 人調査隊 2010

○受賞理由

高度成長期を中心に都市部の河川の水質汚濁は深刻な問題でしたが、その後の施策等により状況は改善してきています。しかしながら、それらの施策の検証を行い、市民の間にきれいな川を守るという機運を盛り上げ、さらなる改善を図っていくことは重要です。

この団体は 2007 年から、名古屋市民の憩いの場となっている堀川をフィールドとして、堀川浄化の機運を盛り上げるため、多くの地点における水質調査、情報発信、行政との意見交換会など市民と行政のステップアップ型パートナーシップによる幅広い活動を実施し、堀川の水質改善・保持に成果を上げてきました。

調査・研究のみにとどまらずに、約 53,000 人にも及ぶ市民による大規模なネットワークの構築、清掃、上下流交流、情報発信活動などの多様な活動による成果は、官民協働の取組みとして高く評価できることから、国土交通大臣賞にふさわしいと判断しました。

環境大臣賞（賞状・副賞 50 万円） 福島県 団体

活動主体の名称：ふるさとの川・荒川づくり協議会

活動の名称：8年連続「水質最良」な荒川の川づくりに貢献！

～ふるさとの川・荒川づくり協議会 20年の取組み～

○受賞理由

地域における水環境のシンボルを大切にしていくためには、行政における取組みだけではなく、“こころ”を持つ地域住民の方々による取組みが重要です。

この団体は 2007 年から、福島県内を流れる荒川（阿武隈川水系）を地域における水環境のシンボルとして捉え、町内会、学校、関係団体等との連携を図りつつ、水環境や水防災に関する学習会、河川清掃、水質・生物調査、河川の探訪会の実施など幅広い活動を精力的に繰り広げ、荒川の水環境の向上や水環境への意識の向上等に取り組んできました。

20 年以上にもわたる活動であるという継続性やその活動の多様性はもちろんのこと、多くの個人や企業等の理解と協力を得て行ってきた活動は、荒川を通じて地域における良好な水環境を創出する優れた取組みとして高く評価できることから、環境大臣賞にふさわしいと判断しました。

厚生労働大臣賞（賞状・副賞 50 万円） 東京都 団体

活動主体の名称：Japan National Young Water Professionals

活動の名称：日本の水に関わる若手を結ぶプラットフォームの構築

○受賞理由

上下水道は都市を支える重要インフラであり、その持続的な運営のためには十分な技術を持った人材が欠かせませんが、ベテラン職員が大量に退職する時期を迎え、技術継承のために若手技術者の育成が急務となっている状況です。

このような状況の中で、この団体は、水業界を支える若手技術者の育成・入職促進等を目的として、研究機関・事業体・民間企業等に所属する若手のネットワーク構築、セミナー・ワークショップによる情報の共有と発信などのプラットフォーム構築を行い、技術者間の交流、学生の就職活動における水業界への意識付けなどの成果を上げています。

若手技術者の人材育成という将来を見据えた視点から、産・官・学さまざまな分野で構成されるプラットフォームを基本にして展開している様々な活動は、今後の上下水道に関わる技術水準の確保・向上を図る優れた取組みとして高く評価できることから、厚生労働大臣賞にふさわしいと判断しました。

農林水産大臣賞（賞状・副賞 50 万円） 新潟県 団体

活動主体の名称：特定非営利活動法人 五泉トゲソの会

活動の名称：E S D 学習－捨てられていた魚は環境の見張番

○受賞理由

いくつかの特定の生物は、その生息状況を水域の水質指標として捉えることが可能です。さらにその生息状況の情報発信を通じて、地域における水環境保全への関心を高めていくことが期待できます。

この団体は、「トゲソ」（淡水魚イバラトミヨの新潟県五泉地域での呼称）に焦点を当て、五泉地域における生息地での観察活動、トミヨに関する情報発信活動、ビオトープ造成等の保全活動、環境学習活動を長年にわたり実施し、さらには「とげそ米」などの農産物の生産販売を通じて、水環境保全の重要性を地域社会に広げています。

20 年以上にもわたる活動であるという継続性やその活動の多様性・規模等はもちろんのことですが、トゲソやきれいな水の保全活動を基礎にした農産物の販売・生産活動を通じて地域農業や地域社会の振興にもつながる優れた取組みとして高く評価できることから、農林水産大臣賞にふさわしいと判断しました。

文部科学大臣賞（賞状・副賞 50 万円） 千葉県 団体

活動主体の名称：特定非営利活動法人 NPO 富里のホタル

活動の名称：印旛沼源流域での里山保全活動と環境教育

○受賞理由

身近にある里山の保全の大切さへの認識が高まる中で、里山保全に関わる活動の実施のみならず、その活動を通じて次世代も含んで環境保全への意識を高めることは重要です。

この団体は、千葉県にある印旛沼流域内の里山周辺をフィールドに、植樹等の里山保全活動に加え、将来にわたり活動の持続性を確保する観点から、幼稚園児を対象にした教育活動、小学生を対象にした自然観察会、稲作体験学習、中学生・高校生を対象にした調査活動、ボランティア活動の支援など、年齢に応じた環境教育を行っています。

これらの活動は、環境保全意識を次世代につなげていくという目的の下で、年齢に応じて学ぶ意欲を増進させる学習内容の設定という実効性の高い手法により行われており、多くの環境教育への取組みの中でも優れた取組みとして高く評価できることから、文部科学大臣賞にふさわしいと判断しました。

経済産業大臣賞（賞状・副賞 50 万円） 滋賀県 団体

活動主体の名称：びわ湖エコアイデア倶楽部

活動の名称：琵琶湖の生態系維持活動と琵琶湖の水文化（伝統漁法・食文化）を次世代のこどもへ繋ぐ

○受賞理由

我が国最大の大きさを誇る琵琶湖（滋賀県）においては、多くの団体が様々な視点から環境保護活動を行っています。

そのような中で、この団体は、「企業市民として出来る環境活動の実践」という意識の下で、琵琶湖の景観・自然生態系の保全に加え、次世代を担うこども達に環境・食文化を継承することを目的として、水質調査活動への参加のほかこども達を対象にして田植え、稲刈り学習、伝統食づくり等の活動を行っています。

これらの活動が、自ら実行する環境保全活動のみならず次世代を担うこども達への環境・食文化の継承というユニークな視点を持って行われていることに加え、「企業市民として」という意識の下で一企業内の有志が取り組んでいる姿勢は高く評価できることから、経済産業大臣賞にふさわしいと判断しました。

市民活動賞（賞状・副賞 30 万円） 北海道 団体

活動主体の名称：厚沢部町河川資源保護振興会

活動の名称：厚沢部川水系の水辺環境と河川資源を活用した地域に根ざした任意団体の活動

○受賞理由

水環境の保全を実現していくためには、行政機関による取組みのみならず、地域の有志による取組みが非常に重要です。

この団体は、1972 年から北海道の厚沢部川（あっさぶがわ）をフィールドに、次世代を担うこども達を対象にした自然体験学習の支援、人工種苗の生産・放流事業などの水産資源の保護、水産資源の観光資源化にむけた活動などを実施しています。

市民による通算で 46 年以上にわたる活動の継続性や、次世代の子供達を対象にした活動の多様性は高く評価できることから、市民活動賞にふさわしいと判断しました。

国際貢献賞（賞状・副賞 30 万円） 長野県 個人

活動主体の名称：中本 信忠

活動の名称：生物浄化法による安全な飲料水の普及

○受賞理由

水は人間の生存に必要不可欠なものです。しかしながら、我が国では極端な困難は見られないものの、世界では飲料水不足の危機に直面している地域が多く存在します。

そのような中で、この方は安全な飲料水の普及を目的として、サモアやフィジーでの現地指導をはじめ、国内からの技術情報の発信などを通じて「生物浄化法」（いわゆる「緩速ろ過法」）の普及支援活動を実施しています。

広い用地等この手法の適用条件が整う海外の国々を対象に、安全な水を供給するために技術支援を行う取組みは高く評価できることから、国際貢献賞にふさわしいと判断しました。

未来開拓賞（賞状・副賞 10 万円） 愛知県 団体

活動主体の名称：一般社団法人 ClearWaterProject

活動の名称：流域を支えるクラウドファンディング カワサボ

○受賞理由

インターネットの普及に伴い、社会において資金の調達手法が多様になってきましたが、そのひとつにクラウドファンディングを挙げることができます。

この団体は、河川や流域を対象を特化したクラウドファンディングにより河川の環境保全や水害被災地支援に必要な資金の一部を調達して支援することをはじめ、インターネット上で川の魅力を伝える「川遊びマップ」などの開発・運営の活動なども行っています。

河川・流域に特化したクラウドファンディングという手法の斬新さや、他団体の取組みの広がりの可能性の高さも評価して、未来開拓賞にふさわしいと判断しました。

審査部会特別賞（賞状・副賞 10 万円） 愛知県 団体

活動主体の名称：みどりのまちづくりグループ

活動の名称：緑の回廊づくり

○受賞理由

植林等により水源を保全する活動は、健全な水循環を実現していくための数多くの手段の中でも、水量、水質面をはじめ土砂災害防止の面でも重要な活動です。

この団体は、愛知県内の大谷川、内津川（いずれも庄内川水系）をフィールドとして、多くの参加者を募って市民や子供達とともに、両河川の源流地域などにおける植樹活動をはじめ、河川美化活動や自然体験活動などを行っています。

15 年間にわたる継続性や、年間延べ 3,000 人を越える参加者とともに行う 23 のプロジェクトの展開という活動の規模を評価して、審査部会特別賞にふさわしいと判断しました。

第21回日本水大賞委員会 委員名簿

平成31年3月22日現在

名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下		
役職	氏名	所属・職名
委員長	毛利 衛	日本科学未来館 館長
副委員長	虫明 功臣	東京大学 名誉教授
委員	赤星 たみこ	漫画家
委員	大垣 眞一郎	公益財団法人水道技術研究センター 理事長
委員	大島 一哉	(株)建設技術研究所 相談役
委員	櫻野 泰則	一般社団法人日本建設業連合会 環境委員長
委員	柴田 岳	読売新聞東京本社 取締役編集局長
委員	進士 五十八	公立大学法人福井県立大学 学長
委員	須藤 隆一	生態工学研究所 代表
委員	谷田 一三	大阪市立自然史博物館 館長
委員	名執 芳博	NPO法人日本国際湿地保全連合 会長
委員	松田 芳夫	一般社団法人全日本建設技術協会 技術顧問
委員	三浦 啓一	一般社団法人日本経済団体連合会 廃棄物・リサイクル部会長代行
特別委員	森 昌文	国土交通事務次官
特別委員	森本 英香	環境事務次官
特別委員	鈴木 俊彦	厚生労働事務次官
特別委員	末松 広行	農林水産事務次官
特別委員	藤原 誠	文部科学事務次官
特別委員	嶋田 隆	経済産業事務次官

*委員は50音順

第21回日本水大賞審査部会 委員名簿

平成31年3月22日現在

役職	氏名	所属・職名
部会長	虫明 功臣	東京大学 名誉教授
委員	赤星 たみこ	漫画家
委員	浅枝 隆	埼玉大学大学院理工学研究科 教授
委員	浅羽 雅晴	科学ジャーナリスト
委員	安藤 茂	公益財団法人水道技術研究センター 専務理事
委員	池田 裕一	宇都宮大学地域デザイン科学部 教授
委員	太田 進	公益社団法人におい・かおり環境協会 事務局長
委員	大野 重男	公益財団法人ハーモニセンター 理事長
委員	風間 ふたば	山梨大学大学院国際流域環境研究センター 教授
委員	久保 成隆	東京大学農学生命科学研究科 名誉教授
委員	重 政子	NPO法人自然体験活動推進協議会 評議委員
委員	清野 聡子	九州大学大学院工学研究院 准教授
委員	高木 宏明	一般社団法人 日本環境衛生施設工業会 専務理事
委員	玉岡 かおる	作家・大阪芸術大学 教授
委員	藤山 秀章	公益財団法人 河川財団 参事
委員	森 誠一	岐阜経済大学経済学部 教授
委員	山田 正	中央大学理工学部都市環境学科 教授
委員	山田 哲朗	読売新聞東京本社 科学部長

*委員は50音順